

# 陳 述 書

平成27年10月5日

東京地方裁判所 御中

原告 五十嵐ゆう子

私は、ロサンゼルスに学生時代から27年間住んでいます。私には、アメリカの大学に通う20歳の息子がいます。

私は、日本人のコミュニティーとも付き合いがありますが、近所づきあいや仕事上で、多くのアメリカ人の友人知人と仲良く付き合っています。

しかし、近年は、私がアメリカに来た当時には想像もつかなかったことが起こり始めています。ロサンゼルス市の隣の町のグレンデール市に韓国人たちが主張して慰安婦像が建てられたり、日本人の子供が学校で韓国人にいじめられたりする事件が起きるようになってきました。以前は日本人だと誇りをもって自己紹介ができたのに、最近では多少のためらいを感じるようになりました。こんなことは私がアメリカに来た当時には全くあり得なかったことです。私の息子も日本人であることを恥とを感じるようにならないかと心配です。

私は勤務先の本社があるサンフランシスコにもよく行きますが、そこにも慰安婦像が建つということです。本当にくやしくてなりません。

慰安婦像の建築を主張する韓国人の人たちは、みんな南京事件や吉田清治のことを知っています。それは朝日新聞のせいです。

私は、朝日新聞を読んでいました。しかし、昨年8月、植村証言についての大きな記事を見てすっかり読むのが嫌になりました。そして、最近の慰安婦像や、子どもに対するいじめが朝日新聞がきっかけだったと知りました。朝日新聞は、日本国内向けには、慰安婦に関するウソの記事を取り消して謝罪しましたが、そのことはアメリカでは一般に知られていません。

私はアメリカに住む日本人女性の一人として、この度、朝日新聞に対し、謝罪広告と損害賠償として1万円を請求する訴訟の原告となって、日本人の名誉をかけて闘って行きたいと決意しております。